

名戸ヶ谷

ビオトープの概要

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会 篠崎 将

かつて、名戸ヶ谷湧水周辺地域は谷津地形の面影を残し、湧き水が多くありました。この湧き水を利用して水田耕作が行われ、またホタルやトンボなど多様な動植物の生息する貴重な自然環境が残されていました。しかしながら近年この地域一帯は都市化が進み、本来の里山的な自然は、現在では名戸ヶ谷湧水に接する水田に、この環境を残すのみとなってしまいました。

このような中で、名戸ヶ谷湧水に隣接する水田が休耕されて荒廃し、残されている自然環境の存続が危ぶまれていました。このため水田の一部を市の所有にするとともに、周辺地権者の理解と協力を得て、ここに湿地のビオトープを育成することになりました。

ビオトープは多様な生きものの生活空間であるとともに、市民が身近な自然にふれて生きものとの共生を考え、環境学習に役立つことをねらいとしています。平成14年環境省から補助金を得てビオトープとして整備を行い、平成15年1月、「名戸ヶ谷ビオトープを育てる会」が発足しました。現在、柏市環境保全課の協力を得て管理、運営を行っております。

名戸ヶ谷ビオトープ育成の原則は

- (1) 湿地の自然として、多様な動植物が生息できる場とする。
- (2) 育成、生息する動植物は、この地域に本来あるべきものを復元する。
- (3) 他に地域のもの、外来種、栽培種などは導入しない（遺伝子レベルの混雑を防止するため）

としています。次に名戸ヶ谷ビオトープの概略を記します。

1 .ビオトープの構成

Aゾーン

在来農法による稲作水田
不耕起栽培による稲作水田
ホタル育成区域兼水温調整池

Bゾーン

湿生植物及び水生動物の育成地

2. 湧水量

18 m³ / 日

3 活 動

ビオトープを育てる会は次のような活動を行っています。

- (1) 会員は次の4部会に分れて、それぞれ活動しています。会員の希望により複数の部会に所属している人も多くいます。

水田稲作部会（在来農法による無農薬無化学肥料稲作栽培）

不耕起稲作部会（不耕起栽培による無農薬無化学肥料稲作栽培）

生きもの部会（植物、動物生育環境の育成）

ホタル部会（ホタル生育環境の育成）

- (2) 自然観察会

会員および一般市民を対象にした自然観察会で、冬季を除き毎月開催しています。また依頼により小学生を対象にした観察会も開催しています。

- (3) 生態系調査

ビオトープ内の生きもの全般について、どこに、なにが、何匹いたかを記録する。植物、動物それぞれに専門の外部講師を招き、会員とともに調査する。年2回実施。

- (4) 名戸ヶ谷小学校5年生、6年生に水田稲作の指導を行っている。

代掻き、田植え、草取り、稲刈り、稲扱きの各工程を会員とともに作業する。刈り取った稲は児童が校庭に運んで天日乾燥し校庭で稲こきを行う。

- (5) 名戸ヶ谷小学校の「親子ふれあいの集い」で生徒と餅つきを行いおむすびをつくり、父兄、先生及び全生徒と試食している。

- (6) 会報の発行

「名戸ヶ谷ビオトープを育てる会だより」を偶数月1日発行している。(A4 カラー4頁)

- (7) ホームページの開設

会則、年間予定、会報その他イベントなどの情報を公開しています

<http://homepage3.nifty.com/biotope/index.html>